

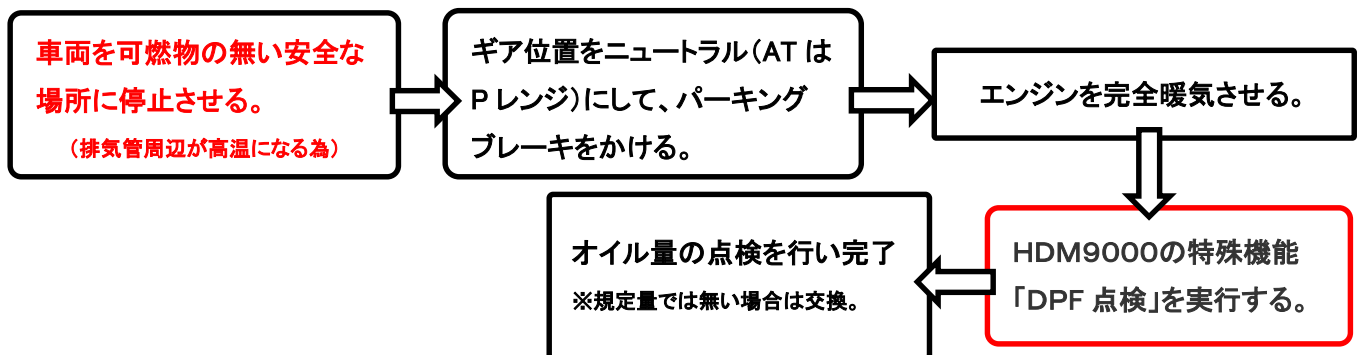
## 日立ダイアグノスティックツールHDM-9000操作ガイド 三菱ふそう/DPF 強制再生(特殊機能選択時)

### 注意事項/必ずお読みください

- 実際の作業に当たっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で作業手順、作業上の注意点を参照の上、作業を行って下さい。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更される為、本資料に掲載する機能が使用できない場合がございます。
- 「特殊機能」による DPF 強制再生は、DPF 関連の故障コード読取・消去関連データ表示、DPF データリセットを半自動的にスキャンツールが行います。よって、自動処理の出来ない故障コード(現在発生中により記憶されており点検整備によってしか消去されないもの等)やデータリセットが検出された場合、DPF 強制再生モードが中断され強制再生が出来ません。その際は通常メニューの「診断」・「車両選択」・「エンジン」・「故障コード読取」「作業サポート」を個別に選択して手動にて作業を行って下さい。

### 1. DPF 強制再生の流れ

- DPF フィルタに一定量のPMが堆積してPMを燃焼する必要がある場合、またはDPF フィルタの状態を確認する際、スキャンツールの作業サポート機能「DPF 強制再生」を使用します。
- 下記の流れで「DPF 強制再生」を実行します。



### 2. HDM9000操作手順(作業要領含む)

#### 【手順001/車両側の準備】

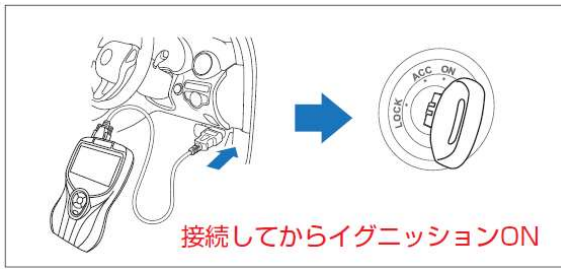
下記を行ってください。

- ① 周囲に可燃物が無く、換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させてください。(DPR強制再生中は排気管周辺が高温になる為、特に排気管回りに可燃物が無いが、ご注意ください)
- ② シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT車はPレンジ)
- ③ パーキングブレーキをかけてください。
- ④ エンジンをアイドリング状態にしてください。尚、アイドリングコントロールノブによってエンジン回転数が上がっている場合は、左いっぱいに戻してエンジン回転数を下げてください。
- ⑤ アイドリングストップ装着車はアイドリングストップスイッチをOFF(解除)してください。
- ⑥ PTO装着車はPTO作動を停止させてください。

(次ページに続きます)

### 【手順002:HDM-9000の車両への接続と特殊機能の起動】

下図の様に HDM-9000 を車両側診断コネクタに接続して下さい。HDM-9000 が起動し、HDM9000 メニューが表示されましたら、カーソルを「特殊機能」に合わせて ENTER キーを押して下さい。



### 【手順003:「DPF」の起動】

「特殊機能」画面が表示されます。カーソルを「DPF」のアイコンに移動させ、ENTER キーを押します。



### 【手順004:「三菱ふそう」⇒「DPF 点検」の選択】

「DPF」画面が表示されます。カーソルを「三菱ふそう」に移動させた後、続けて「DPF 点検」にカーソルを移動させて ENTER キーを押して下さい。



### 【手順005:車両の選択】

車両の選択を行います。「車両選択」「年式選択」の順番で画面が表示されますので、それぞれの画面で入庫車両に該当する項目をカーソルで選択して ENTER キーを押して下さい。



### 【手順006:「DPF 点検モード」の起動】

「DPF メニュー」画面が表示されます。カーソルを「DPF 点検モード」に移動させ、ENTER キーを押して下さい。



(次ページに続きます)

### 【手順007:作業内容の表示】

「DPF 点検の作業内容」画面が表示されます。ENTER キーを押してください。



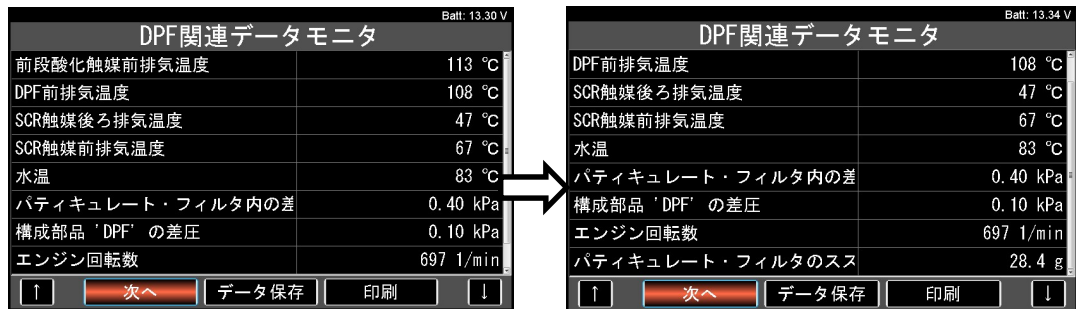
### 【手順008:「DPF 点検モード」の開始】

「DPF 点検モード」画面が表示されます。ENTER キーを押してください。



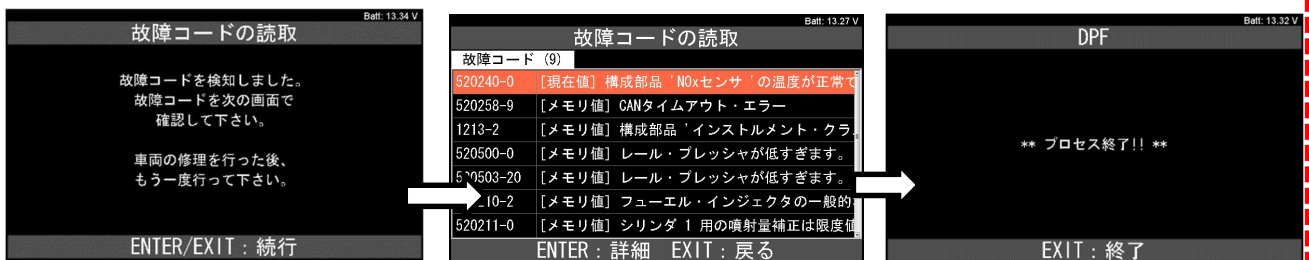
### 【手順009:「DPF 関連データモニタ」の表示】

「DPF 関連データモニタ」が表示されます。上下キーでスクロールさせて確認し、ENTER キーを押してください。



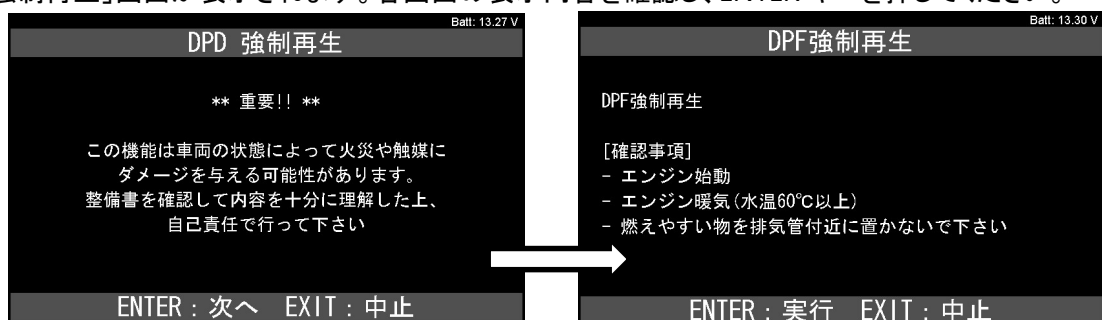
### 【補足】

途中で消去出来ない故障コードが検知された場合、下の様な画面遷移となり「DPF 点検」が中断されます。この場合は、ENTER キーを押して一旦「DPF 点検」を終了させ、故障コードで示される個所の点検整備を行ってください。



### 【手順010:「DPF 強制再生」の表示】

「DPF 強制再生」画面が表示されます。各画面の表示内容を確認し、ENTER キーを押してください。




(次ページに続きます)

### 【手順011:「DPF 強制再生」の実行】

「DPF 強制再生」の実行画面が表示されます。ENTER キーを押してください。再生が開始されます。

DPF強制再生		Batt: 13.27 V
実SCR触媒浄化効率	0.00	
NOx値 (概算値)	110 ppm	
NOx値 (実測値)	-1	
SCR触媒内NH3	2.2700 g	
現在のAdBlue®配分量	0.00 mg/s	
要求されたAdBlue®配分量	0.00 mg/s	
アイドリング時のエアフロ学習値	0.098 %	
負荷時のエアフロ学習値	2.686 %	
開始		



DPF強制再生		Batt: 13.31 V
実SCR触媒浄化効率	0.00	
NOx値 (概算値)	110 ppm	
NOx値 (実測値)	-1	
SCR触媒内NH3	2.3700 g	
現在のAdBlue®配分量	0.00 mg/s	
要求されたAdBlue®配分量	0.00 mg/s	
アイドリング時のエアフロ学習値	0.098 %	
負荷時のエアフロ学習値	2.686 %	
再生中... (00:49)		

### 【手順012:「完了!」の表示】

強制再生は車両の状態により30分前後かかります。

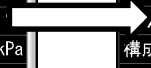
「完了!」が表示されましたら ENTER キーを押してください。

DPF強制再生		Batt: 13.31 V
完了!		
ENTER : 次へ		

### 【手順013:「DPF 関連データモニタ」の確認】

「DPF 関連データモニタ」が表示されます。上下キーでスクロールさせて確認し、ENTER キーを押してください。

DPF関連データモニタ		Batt: 13.27 V
前段酸化触媒前排気温度	113 °C	
DPF前排気温度	108 °C	
SCR触媒後ろ排気温度	47 °C	
SCR触媒前排気温度	67 °C	
水温	83 °C	
パティキュレート・フィルタ内の差	0.40 kPa	
構成部品 'DPF' の差圧	0.10 kPa	
エンジン回転数	697 1/min	
終了		データ保存 印刷



DPF関連データモニタ		Batt: 13.31 V
DPF前排気温度	108 °C	
SCR触媒後ろ排気温度	47 °C	
SCR触媒前排気温度	67 °C	
水温	83 °C	
パティキュレート・フィルタ内の差	0.40 kPa	
構成部品 'DPF' の差圧	0.10 kPa	
エンジン回転数	697 1/min	
パティキュレート・フィルタのスス	28.4 g	
終了		データ保存 印刷

### 【手順014:「DPF 点検モード」の終了】

- ① 「全ての作業が完了しました」が表示されましたら ENTER キーを押してください。
- ② 車両側診断コネクタから HDM9000を取り外してください。

DPF点検モード		Batt: 13.27 V
全ての作業が完了しました。		
ENTER/EXIT : 終了		

### 【手順015/エンジンオイルのチェック】

エンジンオイルを点検して規定量では無い場合、オイル交換を行ってください。(完了)

